

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「担当の教科を高校で学ぶ意義を、生徒にどのように伝えていますか」

▶▶ 英語

「英語はコミュニケーションの道具であり、思考の道具でもある。英語を身に付けるだけでなく、それを使って何をするのが問題である。英語を使って何がができるようになってみよう」と話している。

英語を学ぶ理由は、状況に応じて話をしているのが実態です。「論理的な考えができるようになる」と言う場合もありますし、「職業選択の幅が広がる」と言う場合もあります。「とにかく勉強しなさい」と言う場合もあります。でも、言葉の大切さはじんわりとでもすべての生徒にわかってもらいたいと思って授業をしています。

▶▶ 国語

「現代と大きくかけ離れた時代に書かれた古典作品が、今なお人の心を強く捉えるのはなぜか。それは古典文学が人間にとって時代や場所を越えて変わらないテーマを取り上げているからに他ならないからである。また、過ぎ去った時代の人々の、考えや感じ方を学ぶことが、古典を学ぶ魅力でもあり、意義でもある。ここに我々が古典を学ぶ理由がある」と話している。

最初の授業で必ず「なぜ日常会話に何不自由ない高校生になってまで国語を勉強するのか」の話をします。高校で学ぶ国語は、日常会話レベル（身内にだけ通用する言葉）でなく、パブリックなレベルでの社会人として「他者」とも十分に意思疎通して、良好なコミュニケーションを構築していけるツールとして不可欠であることなどを伝えています。

「言語の限界が思考の限界である。言葉を知らないで得られないものは多いので、国語の授業における言語活動を通じて、自分の世界を広げよう」と話している。

▶▶ 地理歴史

地理は地形、気候、産業から環境問題、人口問題、資源問題に至るまで、現代社会を生きていく上で人々が直面する課題を真正面から捉えている科目であることを伝えている。

「歴史を学べば、現代がわかる。歴史は繰り返すというのが実は違う。らせん階段のようなものだ。上から見れば同じ所を通過したように見えるが、横から見れば高さが違う。その横から見る能力を養い、よりよい社会をつくる力を身に付けよう」と話している。

▶▶ 数学

社会に出てから直接的に数学が役に立つことはほとんどないが、物事の考え方や伝え方（プレゼンテーション）の基本であり、理系の学問においてはすべての根本的な要素であるから、数学的発想を持っていることは大前提であると伝えている。

「数学とは、ただ単に計算するだけの学問ではなく、論理的な思考力を身に付けたり、計算の結論の美しさを感じ取ったりする学問である。論理的な思考力は、他の教科でも必要であり、社会に出てからも特に必要な能力の一つである」と伝えている。

テクニックの習得ばかりに熱心になる生徒もいるので、「答えがひとつだけしかない問題に関しては、それだけで問題を解決できるかもしれないが、世の中には答えがひとつではない問題が数多くある。その場合は、問題の本質を整理し原理・原則を見極めていくことで方向性が見えてくる場合がある。数学の問題を解く中でも、条件を整理していくことで問題の本質を見出し、論理的思考力を磨いていこう」と伝えている。

▶▶ 理科

化学は未来を作る学問であると話をします。世界を支えているのは理科であり、日頃から科学的なものの見方、なぜと思う気持ちを大事にしなさいと指導しています。

「日本は技術大国であり、その技術を支えるのは国民全体の科学への関心や知識である。技術者になるためにはもちろん、一消費者としても高校で最低限の知識を身に付ける必要がある」と話している。